（別紙4）　　平成　23　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4691400032		
法人名	株式会社　ケイシン		
事業所名	グループホームたるみず太陽の家		
所在地	鹿児島県垂水市浜平２１８９－６		
自己評価作成日	平成２３年６月２４日	評価結果市町村受理日	平成23年9月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/koreisya/zigyosya/kohyo.html

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成23年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型のグループホームを目指すと共に、自然と触れ合いながら質の高い介護サービスを提供し要介護状態の軽減と悪化の防止に最善を尽くしています。家庭的な雰囲気の中で日常の生活を皆で支え、楽しく過ごして頂けるよう支援しています。また近くに広い畑を借りて野菜を作り、育ち具合や収穫の楽しみを味わって頂いています。地域の施設や区域外に有る同事業所のグループホーム・保育園とも交流をもち、買い物やお花見・社会見学など外出の機会を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

町内会の行事への参加や事業所での催し物の時には、近所の方々にパンフレットを配りお誘いするなど、積極的に、理念の実践に努めている。
運営推進会議は、行政からのアドバイス、地域住民の協力をもらい、事業所の運営に関する問題点を話し合い、充実した会議になっている。
家族が普段連れて行けないところへの外出支援・要望にすぐに対応してくれるなど、家族は喜び、安心している。（アンケートより）

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を元に、たるみず太陽の家として、地域密着型サービスを意識した独自の理念を職員全員で話し合い作成している。重要事項説明書や、施設内の数箇所に掲示し職員全員が理念に沿った実践に取り組んでいる。	平成22年から地域交流を積極的に取り入れることを理念に掲げ、職員は、地域の行事や散歩時に利用者と地域の方々がコミュニケーションできるよう仲介役に努め、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の催し物や奉仕作業にも積極的に参加している。散歩の休憩場として隣の畑にベンチを置き、地域の方と挨拶や会話を交わし関係作りを行っている。演奏のボランティアや野菜の差し入れを頂いたり日頃から交流している。	町内会の奉仕作業や小学校の発表会・公民館の催し物などへの参加、事業所での催し物の時には、近所の方々にパンフレットを配りお誘いするなど、積極的に、理念の実践に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや地域のヘルパー実習生を積極的に受け入れている。今年は地域の方と、ご家族の協力を頂き夏祭りを行います、一緒に関わる中で認知症の人への理解が得られるものと期待しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者現状報告、活動報告、職員研修報告等の資料を用意し、毎月のたよりや写真を元に報告を行っている。評価への取り組み情況も報告し、家族や委員からの提案も多く有り、サービス向上に生かせている。	毎回行政職員の参加にて、年6回開催されている。毎回、行政からのアドバイス、地域住民の協力をもらい、事業所の運営に関する問題点を話し合い、充実した会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務的な事以外にもサービスへの相談、助言を頂いている。保険福祉課や地域包括主催の勉強会にも参加している。毎年、消防署の職員に来て頂き普通救命講習の指導を受け、協力関係作りを行っている。	運営推進会議に毎回市職員が参加し、事業所の運営について、たくさんのアドバイスをもらい、公民館での行事の準備・片付け等を事業所の職員が手伝うなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体束縛委員会を設置し毎月確認している。研修会も積極的に参加し全職員が理解しており、身体束縛はしないケアを行っている。	毎月、利用者個々の身体拘束禁止チェック管理表で、身体拘束をしていないか振り返っている。グループホームにおける具体的な行為を正しく理解する研修・実施記録が確認できない。	職員で、グループホームでの身体拘束禁止対象となる具体的な行為を話し合い、マニュアルを充実させ、毎月のチェック表が身体拘束をしないケアの取り組みに繋がることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を行い、職員は言葉の虐待も理解している。現在も虐待は無いが、見過ごされないよう、入浴時あざや傷がないか注意し防止に努めている。6月28日に虐待の研修会受講の予定である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、青年後見人制度の資料は置いてあるが、理解している職員は少ない。今月の研修会を受講し全員が理解出来るようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書や契約書を元に時間をかけ、納得して頂けるように説明している。ご家族の不安や疑問点、意見なども伺い理解と納得が得られるよう説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回行事に合わせ家族会議の場を持っている。意見箱や苦情相談第三者委員会がある事を伝えている。自分から言われない方には管理者から聞くようにしており普段から意見や要望をきき、運営に反映させている。	夏の家族会・クリスマス会の年2回、家族が集まり話を聞く機会を作っているが意見が出されない。また、面会時に要望を聞くように努め、家族からの意見・要望は職員と話し合い、運営に反映させている。	年に1度、職員のスキルアップのために家族からの声が、これまで以上に表せ運営に反映される機会として、家族の無記名アンケートの実施を提案します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の連絡帳で意見や提案なども出しやすく成っており、すぐに反映する事が出来ている。月１回のミーティングと職員会議でも全員の意見、要望等を聞くようにし、言いやすい雰囲気作りを行っている。	毎月の職員会議で、行事計画の実施にあたり職員の意見・提案を聞いている。日々のケアについての問題提議は、職員間の連絡帳に書き、職員で話し合い、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月の管理者会議やミーティングで職員の情況を把握している。現状に満足せず　向上心が持てるよう職場の環境　条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は介護の質のレベルアップを重要視され、一人ひとりの力に応じた研修会を積極的に受ける機会を確保している。行政、グループホーム連絡協議会、地域のグループホーム勉強会など多くの職員が参加できるようにし、ミーティングで発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会、大隈地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会や交流会に参加している。同法人内のグループホームとの利用者を含めた交流や、他施設職員の慰問を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、必ず本人と事前面談を行い心身の状態や生活状況を把握するようにしている。施設見学の際も職員全体で笑顔や言葉遣い等配慮し、安心して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込時、これまでの介護の情況や、ご家族の悩みを傾聴し、労をねぎらいながら共感する事で関係作りを行い、不安解消に努めている。その上で介護の理念やサービスを説明し要望もお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の、本人や家族の情況を傾聴し、把握した上で入所手続きを行っている。必要としている支援が、グループホームの役割と違った場合や、空きが無い場合は他の事業所や、包括支援センターの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、利用者が残存能力を発揮できる環境を整えるよう努めている。家事などの役割作り等で自信を持てるようにし、その際　感謝の言葉を忘れず相互の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の便り、電話等で利用者の様子をお伝えし、年2回の家族会や行事にも参加を呼びかけている。病院受診、面会時に家族と散歩に行かれる等、家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人との面会も自由に出来ている。希望があれば自宅やご近所の友達の家にも遊びに行き、兄弟のお見舞いや、お墓参り、買い物にも同行している。兄弟が利用している施設との交流会も行っている。	自宅・友人宅訪問、お墓参り・、兄弟のお見舞いや家族との外出等を3ヶ月に1回は実施できるように努め、馴染みの場所や親戚・家族の関係が途切れない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご夫婦の方や、相性など情況に合わせて座席の配置を工夫し職員が会話や声賭けを心がけて利用者同士の関係が保てるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時から面会を続け家族の不安へのフォローや解消に、医師の所見、看護師を中心に対応している。地区外入院の方へも折を見て面会したり、家族にお会いしたら近況の交換など行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りをし、フェイスシートから見えてこない事も、日々の利用者同志の会話や職員との会話から拾い取れるよう工夫しその都度全スタッフへ連絡ノートで知らせ計画作成に生かしている。	職員は、毎日の利用者との会話やケアの中で、気づいたこと、家族が面会時に話したこと等を連絡帳に書きとめ、職員会議などで話し合い、利用者や家族の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを参考に利用者と会話しながら、より深いフェイスを掘り出しケアに取り入れている。家族、知人の会話などからも、得られる情報は記録しスタッフ間で共有し計画や日々の会話の種としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を行動や会話、健康状態から把握し個人の思いにつながる計画、又これまでの暮らしを少しでも維持できるような計画作成に勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から思いや要望をお聞きし、必要があれば医師の意見を求め、カンファレンスでの職員の意見も把握しながら現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング･評価を計画作成担当者が実施し、ケアカンファレンスで、職員の意見・気づきを話し合い、担当者会議で家族の意見を聞き、介護計画を作成している。	利用者の担当職員を決め、担当職員が毎月モニタリングを行い、計画担当者は3ヶ月ごとに総合評価を行い6ヶ月毎に定期見直しを行いチームで作る介護計画になることを勧めます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況は行動、言葉、感情の変化まで全スタッフで共有できるよう記録の工夫をし計画に生かしている。健康状態についても状態一覧表に記録し看護師を中心に全員が把握し業務に取り掛かっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科医の往診、処方薬の配達なども取り入れている。家族との連絡を取り合い必要に応じ受診付き添いも行っている。本人希望で自宅周辺知人宅への訪問や散髪、墓参りなど随時付き添いを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等に町内会長　市役所　利用者家族に参加して頂き、事業所の状況報告等行い地域行事の情報や、さまざまな助言をもらっている。小学校の発表会等に参加したり馴染みの美容院へ送迎したり安心して外出できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の希望される　かかりつけ医に定期的に受診し異常時には利用者　家族　医療機関と事業所が常に連絡相談出来るよう日頃より連携をとっている。病院まで行けない利用者は訪問診療が行えるよう支援している	訪問診療・訪問歯科診療・病院受診と利用者が希望する受診方法が取られている。家族の要望があれば職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者の心身状態を記録に残し、常時看護師に情報　気づきを報告　相談し　利用者一人ひとりに適した看護　受診が出来るよう連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者との情報交換　相談を行い入院時は利用者　家族　医療関係者事業所との情報交換を密に行っている。面会に伺い家族が遠方の場合　買い物や洗濯も行い利用者が安心して治療出来るよう心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化終末期に関する方針を説明し重度化した場合、医療関係者との連携を取り、早い段階で利用者家族と話し合い利用者家族の意思を尊重し事業所は最も適した環境せの中　介護を行っている。	利用者の契約時に重要事項説明書の重度化した場合の対応に係る指針に沿って説明し、事業所の体制や家族との話し合いや意思確認の方法についても文明化してあり、利用者・家族の同意をもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て毎年普通救命講習を職員全員受講し実地の徹底した講習を受けている。又、毎月職員関で心肺甦生の練習も行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行っている。事業所で月1回の昼間や夜間想定の災害訓練を行い、確認　反省を記録に残している。運営推進会議にて消防署　町内会長や地域の方を招き、避難の協力体制を築いてている。	毎月、火災避難訓練を行い、誘導に要した時間など記録に残している。運営推進会議で参加者のアドバイスをもらい市のハザードマップから災害時の利用者の避難場所の検討をしている。	あらゆる災害想定の事業所独自の対応マニュアルを作成し、夜間想定の地震・津波の訓練も実施することを望みます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないコミニュケーションの取り方等の勉強会を実施すると共に、日常で気づいた声かけ等についてはその場で指導するようにしている。	利用者の人格を尊重し、誇りを損ねない対応について、職員にその都度指導している。マニュアルはあるが、内容が充実してなく研修の実施記録が確認できない。	個人情報について・羞恥心についてなどプライバシーの確保に関するマニュアルを充実させ、年間の研修計画に取り入れ、毎年研修を実施し記録に残すことを望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から色々な場面で利用者の希望を聞いており当施設の利用者は自己決定できる方が多い。、本人のペースに合わせて日常生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に配慮しながら起床、就寝時間、レクレーションへの参加等、本人のペースを大切にしている。急な希望にも予定を変更したり、勤務を変更するなどの工夫をし対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れた服を持って来て頂いている。高齢の方でもブラウスとロングスカートをはき、毎日お化粧される方もいる。化粧品も職員と買い物に行き自分で選んで買っている。散髪は理美容の訪問サービスや馴染みの美容室を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	シンクは両面から使用でき入居者と一緒に会話しながら食器洗い等している。個々の力量に合わせ野菜の下ごしらえ、、トレー拭き、片付け、台拭き等を行い、菜園で作った野菜の話題を提供しつつ楽しい食事になるよう工夫している。	菜園で作った新鮮な野菜や果物などを食しながら職員は話題を提供し、楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。道の駅や吾平の温泉などに出かけ外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分、排泄の記録を取っている。食事や水分制限の有る方、刻み、ミキサー食、とろみ使用の方等、多様に対応している。水分を取りづらい方の為に飲み物やコップを変えたりしている。栄養面は食材を30品目に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、ご本人が出来ない場合は職員が援助している。口腔ケアの勉強会に地域の講師がボランティアで来て頂ける予定である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄チェック表の利用にて　ひとり一人の排泄パターンを把握し　トイレ誘導を行っている。使い慣れたトイレを利用し自立排泄出来るよう支援している。布パンツに変え排泄が自立した方や、現在取り組み中の方もいる。	トイレ誘導のチェックが排泄時間を把握し、失敗しないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。日常のリハビリ運動が利用者の筋力アップになり、排泄の自立へ繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の一般状態表にて　ひとり一人状況を把握し運動　レクレーションを毎日の生活の中に取り入れ　食物繊維の多い食事　乳製品等取り入れ　自然排便を促している。又医療関係者と相談し内服での調節を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者ひとり一人の希望を伺い　利用者に合った入浴を行っている。入浴の嫌いな方には声かけを工夫したり　入るタイミングを逃さないように誘導している。又、ゆっくり入浴出来るよう配慮している	毎日入浴の時間があり、利用者は隔日に入浴している。湯船にゆっくり浸かり入浴の時間を大切に支援している。拒否する方は、声かけの工夫で入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとり一人の日中の行動状況を観察し安眠がとれるよう、利用者に添った日中の家事や運動を取り入れ生活パターンを調整している。日中はソファーで休息を取ったり居室で休まれたり　ひとり一人の体調　希望に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を職員全員が把握できるよう表を作成し勉強会を行っている。利用者の日々のバイタルをチェックし状態の変化に努めている。与薬は名前の確認を2～3名で行い直接本人へ手渡し服用の確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の持っている力が発揮出来るよう家事や園芸等　得意とされる事をお願いしている。希望を伺い買い物　レクレーション　カラオケ等取り入れたりしている。利用者用の毎日の新聞や個人で牛乳を取ったり黒砂糖茶を飲める様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を頂き利用者の希望に添った外出を支援している。又、ホームの行事やドライブ等で普段行けない所へ行けるよう支援している。日常的に利用者の希望があれば予定を変更し、お墓参り　買い物　散歩　お見舞い　自宅や隣人宅への訪問等　行っている。	日常は、ウッドデッキで日光浴・外気浴を心がけている。銀杏並木や垂水の遺跡へドライブに出かけている。同法人の保育園に出かけ利用者は、子供たちとの交流を楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金が無いと不安な方は、ご家族が少しだけ財布に入れて渡されている。買い物は、その方の力に応じてなるべく本人が財布から出して支払いできる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば本人が電話をかけたり、かかって来た電話で自由にお話されている。手紙が少しでも書ける方は、宛名書きなど出来ない所を手伝い、時々出されている。年賀状作りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく大きな窓と広いホールが開放的で、玄関には花や観葉植物が有る。ホールや居室に季節を感じる貼り絵やカレンダー、写真など掲示している。全居室にも温度計が有り、湿度にも気を付けている。日当たりのいい場所にソファーが有り、好きな場所でくつろいでいる。	事務室・台所が壁で区切られず、職員は業務をしながら利用者を見守ることができる。天井が高く天窓から光が入り明るいホールである。ホールからウッドデッキに出られ、今回屋根を取り付け、いつでも外気浴ができるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご夫婦の希望で2人だけの席を利用されたり、8時頃から一人用の机に移動し指のリハビリが日課になっている人や、ソファーで寝転んでくつろいだり　気の会う方と会話を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族のアルバムや利用者の使いなれた布団　服を持ってきて頂いている。家族や行事での写真　カレンダーを飾っている。面会時にお茶を出すなど、ど家族と落ち着いて過ごしていたけるよう配慮している。	2組の夫婦が入所されており、1つの部屋にベッドを2つ並べて、自宅の寝室のように作られている。視覚障害のある方の部屋は、利用者の動線に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目の不自由な2名の方は、トイレ付きの居室にし、今では排泄も見守りで自立している。場所を間違えてしまう方の、居室とテーブル、トイレに　わかりやすい張り紙をし間違いを減らせるように支援している。		